

容器包装に関するアンケート その8

グリーンコンシューマー東京ネットは、活動の一環としてアンケート調査を実施してきました。今回、5年振りに容器包装に関するアンケート(その8)を行いました。この結果を参考に、循環型社会を目指して活動を進めていく所存です。

ご協力いただいた皆様に心から感謝申し上げます。

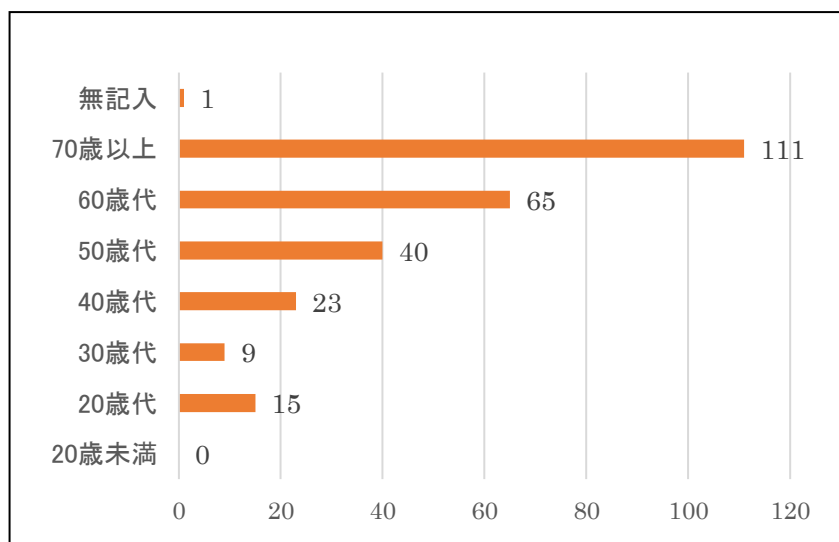
☆ 調査概要 ☆

- 調査期間 2018年7月～8月
- 調査方法 留置き
- 配布数 500部
- 回収数 264部
- 回収率 52.8%

★あなたについてお聞きします★

■あなたの年齢

項目	数	%
20歳未満	0	0
20歳代	15	5.7
30歳代	9	3.4
40歳代	23	8.7
50歳代	40	15.2
60歳代	65	24.6
70歳以上	111	42
無記入	1	0.4
合計	264	100



■あなたの性別

項目	数	%
女性	205	77.7
男性	57	21.6
無記入	2	0.7
合計	264	100

☆ 調査結果 ☆

1. 飲料容器について

Q1-1 表に挙げた飲み物それぞれについて、いつもあなたが買うのは、主にどの容器ですか？

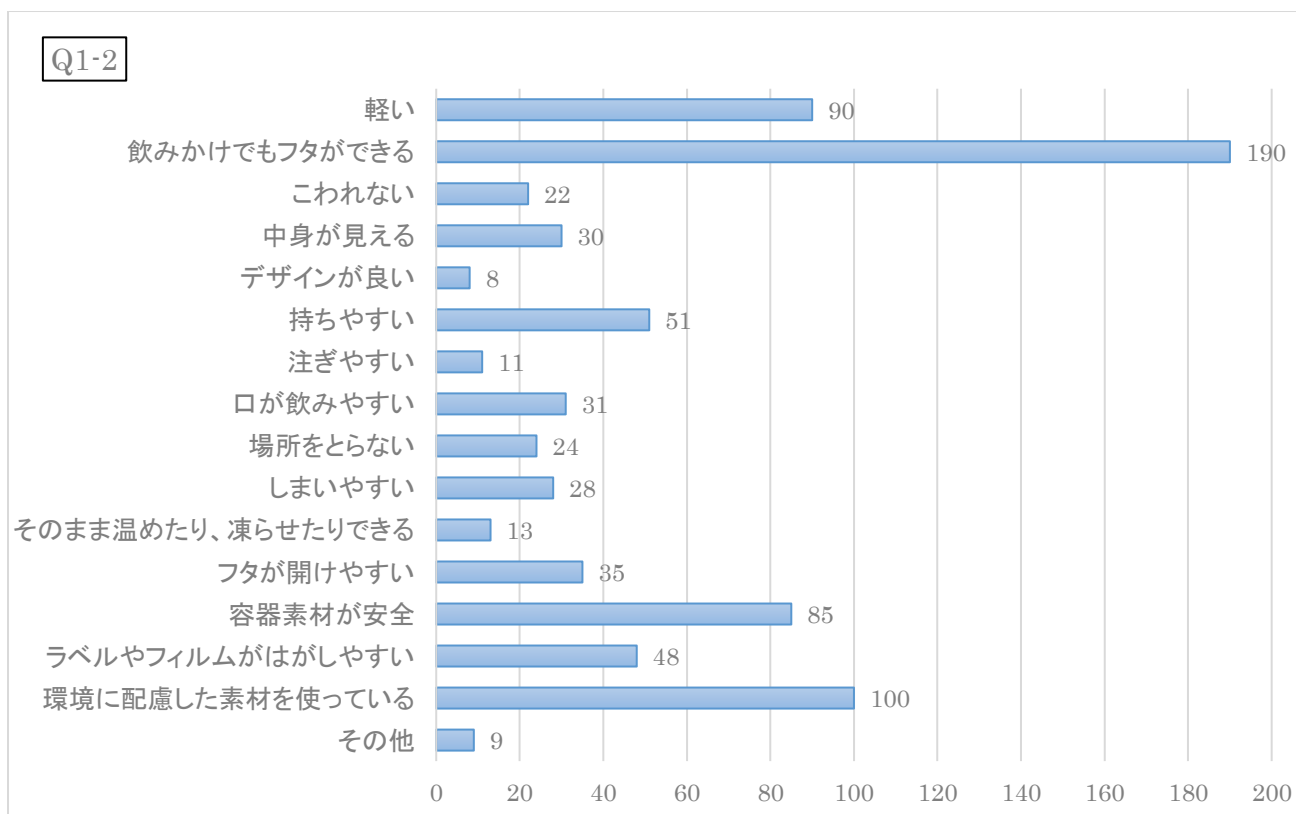
水、お茶、ジュース、コーヒー、清涼飲料水、牛乳、ビール・発泡酒、日本酒、焼酎、ワイン、を購入する時の容器を、ガラスビン、アルミ・スチロール缶、ペットボトル、紙パック、パウチパック、その他、買わない、から選んでもらいました。消費者は、飲み物によって容器を選択しています。その特徴は下記の通りです。

ペットボトル	水、お茶、清涼飲料水
紙パック	牛乳
アルミ・スチロール缶	ビール・発泡酒
ガラスビン	日本酒、ワイン

ジュース、コーヒー、焼酎の容器については、分散されており、特徴は見られませんでした。

Q1-2 飲み物を買う時、どんな容器がよいと思いますか？（3つまで）

NO	項目	数	%	順位
1	軽い	90	34.1	3
2	飲みかけでもフタができる	190	72	1
3	こわれない	22	8.3	12
4	中身が見える	30	11.4	9
5	デザインが良い	8	3	15
6	持ちやすい	51	19.3	5
7	注ぎやすい	11	4.2	14
8	口が飲みやすい	31	11.7	8
9	場所をとらない	24	9.1	11
10	しまいやすい	28	10.6	10
11	そのまま温めたり、凍らせたりできる	13	4.9	13
12	フタが開けやすい	35	13.3	7
13	容器素材が安全	85	32.2	4
14	ラベルやフィルムがはがしやすい	48	18.2	6
15	環境に配慮した素材を使っている	100	37.9	2
16	その他	9	3.4	



飲み物を買う時の容器は、「飲みかけでもフタができる」が第1位で、7割以上の人(190人)が選んでいます。第2位は、「環境に配慮した素材を使っている」(100人)、第3位「軽い」(90人)、第4位「容器素材が安全」(85人)でした。

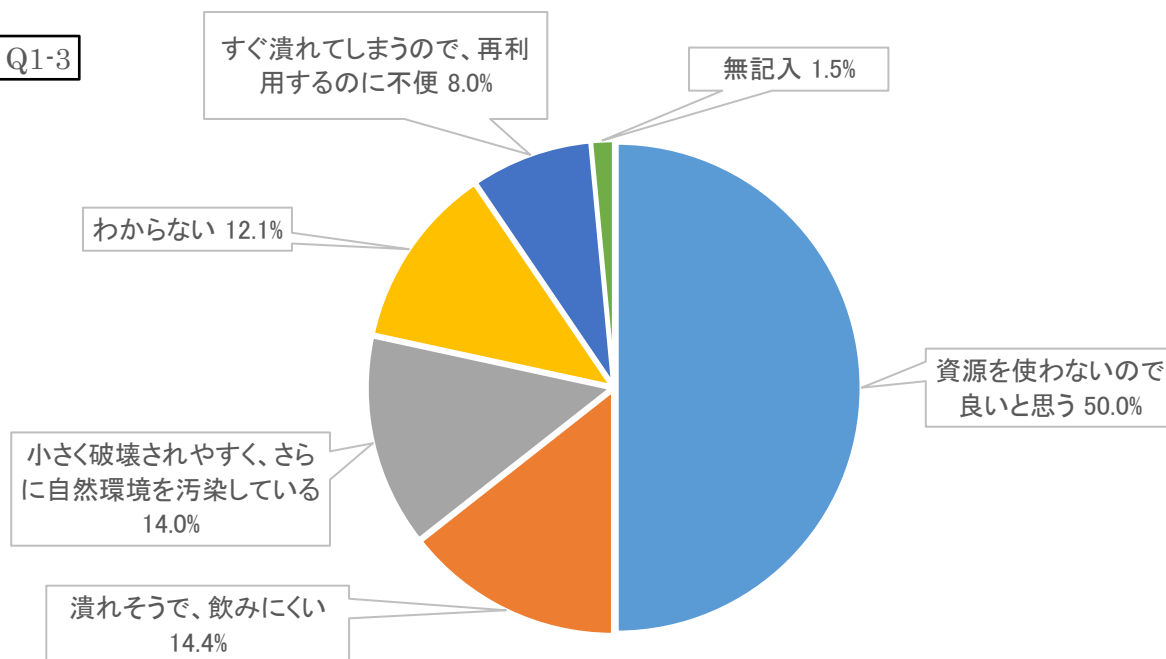
第1位と第2位以下の差を見ると、ペットボトルのようにフタができる容器を求めている人が圧倒的だということが分かります。また、「環境に配慮していること」または「安全であること」等、容器の素材について関心が高いこともわかります。

その他では、リユース容器やリサイクルしやすい容器などが挙げられています。

Q1-3 最近、ペットボトル容器が薄くなってきました。あなたはどのように思いますか？

項目	数	%
資源を使わないので良いと思う	132	50
潰れそうで、飲みにくい	38	14.4
すぐ潰れてしまうので、再利用するのに不便	21	8
小さく破壊されやすく、さらに自然環境を汚染している	37	14
わからない	32	12.1
無記入	4	1.5
合計	264	100

Q1-3

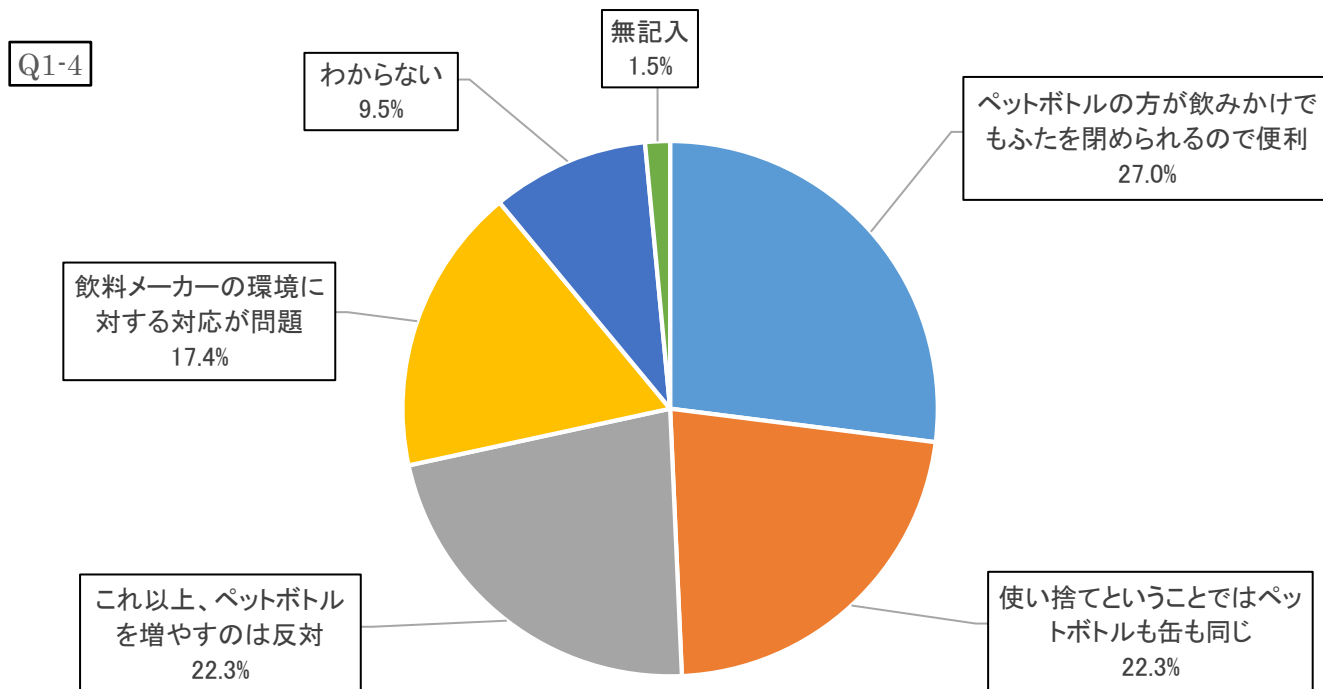


半数の方が、「資源を使わないので良いと思う」を選んでいました。

「すぐ潰れてしまうので、再利用するのに不便」と回答した方は、21人(8%)でした。ペットボトルにお水やお茶などを入れて再利用する人がとても少なく、ペットボトルは使い捨て容器として定着していることがわかりました。一方、「わからない」と回答した方が32人(12.2%)いました。

Q1-4 缶コーヒーやノンアルコール飲料の容器を缶からペットボトルに変更したメーカーが出てきました。あなたはどのように思いますか？

項目	数	%
ペットボトルの方が飲みかけでもふたを閉められるので便利	71	27
これ以上、ペットボトルを増やすのは反対	59	22.3
使い捨てということではペットボトルも缶も同じ	59	22.3
飲料メーカーの環境に対する対応が問題	46	17.4
わからない	25	9.5
無記入	4	1.5
合計	264	100

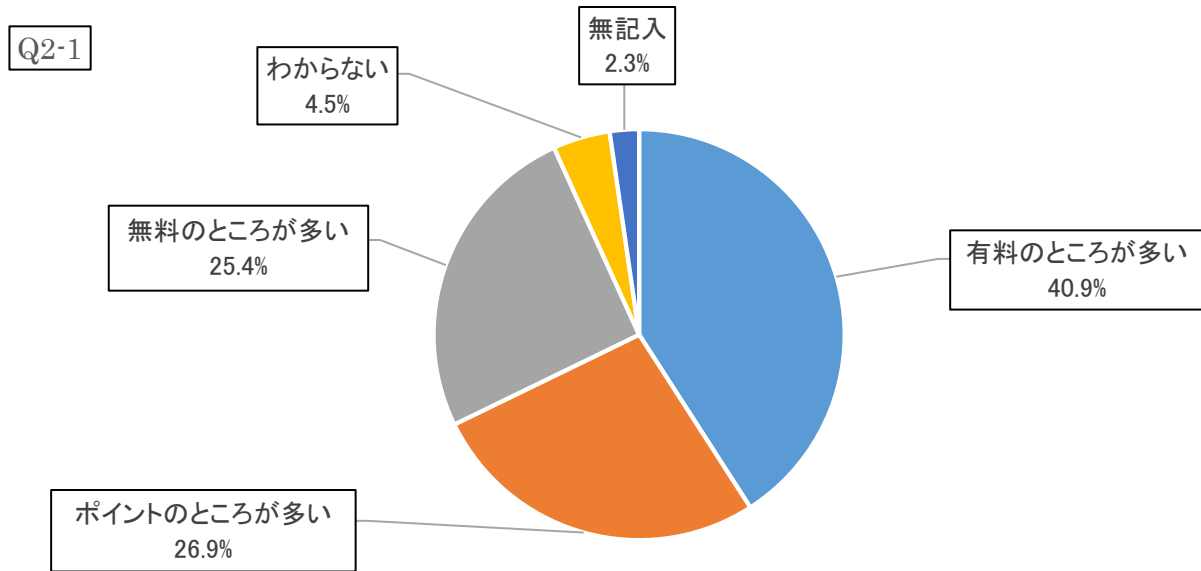


Q1-2 同様、フタを閉められる容器が便利との回答が第 1 位(71 人、27%)でした。第 3 位のペットボトルを増やすのに反対、第 4 位の飲料メーカーの対応に問題など、ペットボトル容器自体に疑問を感じている人を合わせると、約 4 割(105 人)となります。

2. レジ袋について

Q2-1 あなたのお住まいの地域ではレジ袋はどのようになっていますか？

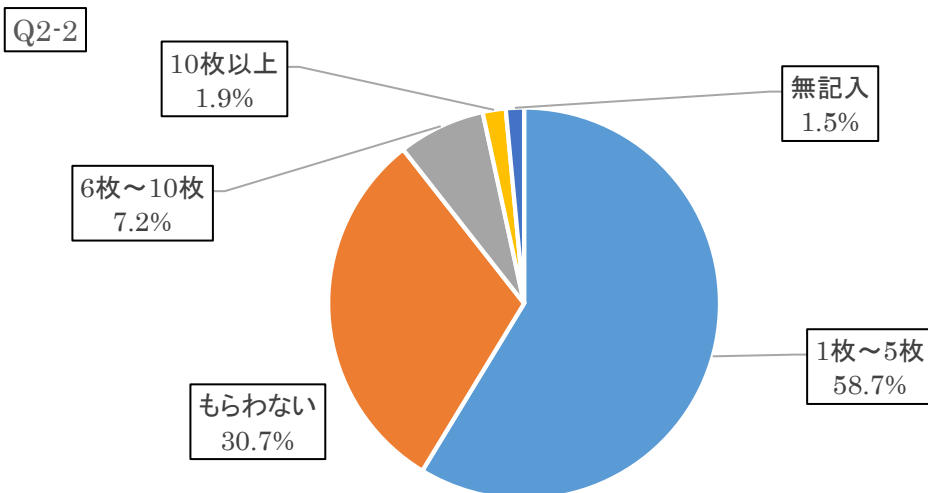
項目	数	%
有料のところが多い	108	40.9
ポイントのところが多い	71	26.9
無料のところが多い	67	25.4
わからない	12	4.5
無記入	6	2.3
合計	264	100



レジ袋を有料にしたりポイントをつけるなど、マイバッグを持参するよう促している店舗が 7 割弱あることがわかりました。一方、「無料」の店舗が約 25%あります。

Q2-2 あなたは週に何枚くらいレジ袋などのプラスチックバッグをもらいますか？

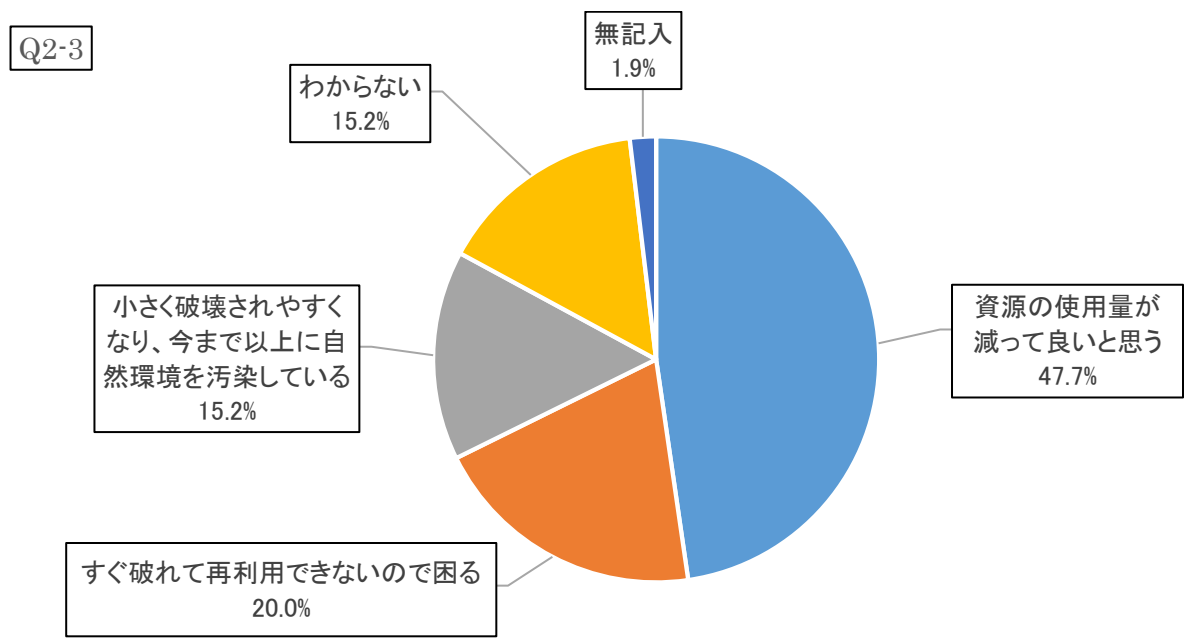
項目	数	%
もらわない	81	30.7
1枚～5枚	155	58.7
6枚～10枚	19	7.2
10枚以上	5	1.9
無記入	4	1.5
合計	264	100



「もらわない」と約3割(80人)の人が回答していますが、その2倍の約6割(155人)の人が週に「1枚～5枚」もらうと答えています。「10枚以上」と回答した人も5人いました。
日本からレジ袋をなくすには、まだまだ多大な努力が必要です。

Q2-3 最近、レジ袋が薄くなってきました。あなたはどう思いますか？

項目	数	%
資源の使用量が減って良いと思う	126	47.7
すぐ破れて再利用できないので困る	53	20
小さく破壊されやすくなり、今まで以上に自然環境を汚染している	40	15.2
わからない	40	15.2
無記入	5	1.9
合計	264	100

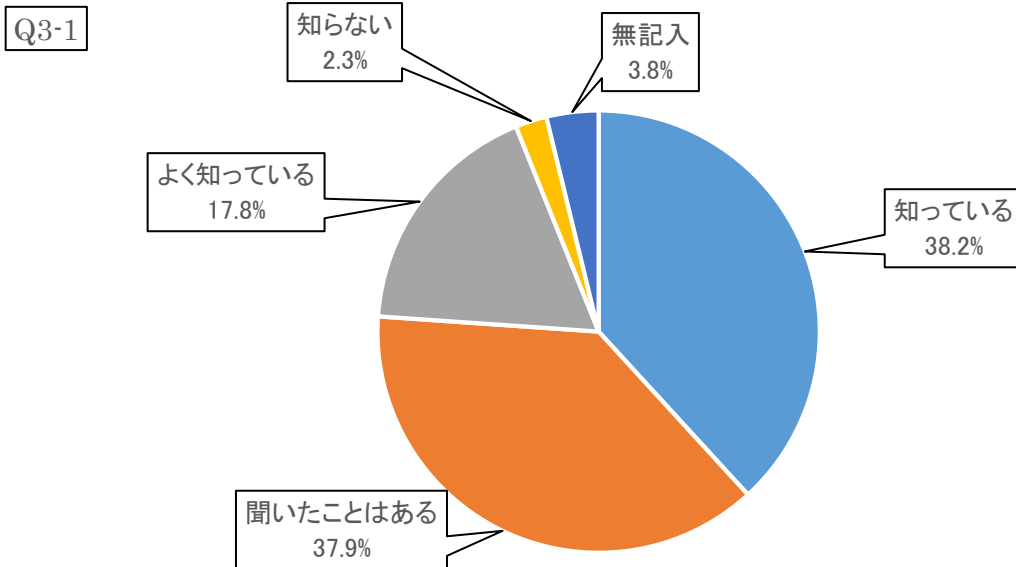


約半数(126人、47.7%)の人が「資源の使用量が減って良いと思う」と回答しています。
また、「今まで以上に自然を汚染している」、「わからない」と答えた人がそれぞれ40人(15.2%)ずついました。

3. マイクロプラスチックについて

Q3-1 世界の海に広がり、生態系への影響が心配されている「マイクロプラスチック」を知っていますか？

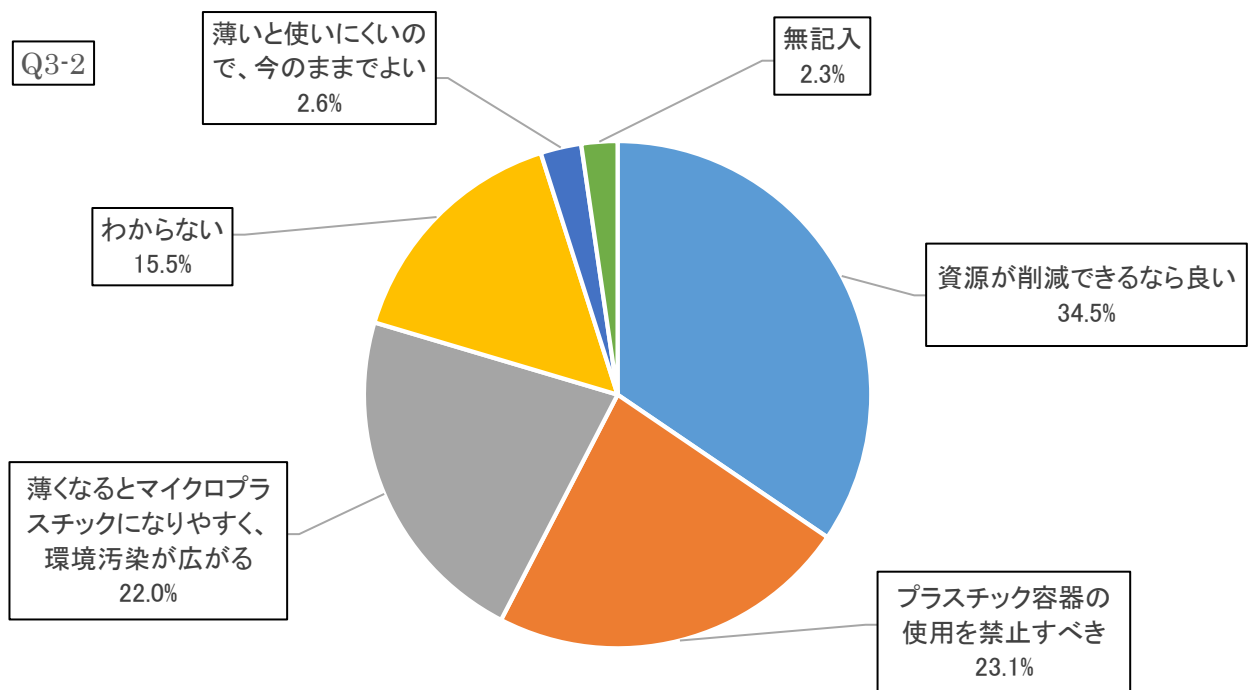
項目	数	%
よく知っている	47	17.8
知っている	101	38.2
聞いたことはある	100	37.9
知らない	6	2.3
無記入	10	3.8
合計	264	100



「よく知っている」(47 人、17.8%)と「知っている」(101 人、38.2%)を合わせると、5 割以上の方がマイクロプラスチックについて知っていると回答しています。さらに、「聞いたことはある」(100 人、37.9%)を合わせると全体の 9 割以上になります。マイクロプラスチックについて、どこかで見たり聞いたりしている人が多いことが分かります。

Q3-2 最近、さまざまなプラスチック容器が資源削減を名目に薄くなってきました。あなたはどのように思いますか？

項目	数	%
資源が削減できるなら良い	91	34.5
薄くなるとマイクロプラスチックになりやすく、環境汚染が広がる	58	22
プラスチック容器の使用を禁止すべき	61	23.1
薄いと使いにくいので、今のままでよい	7	2.6
わからない	41	15.5
無記入	6	2.3
合計	264	100



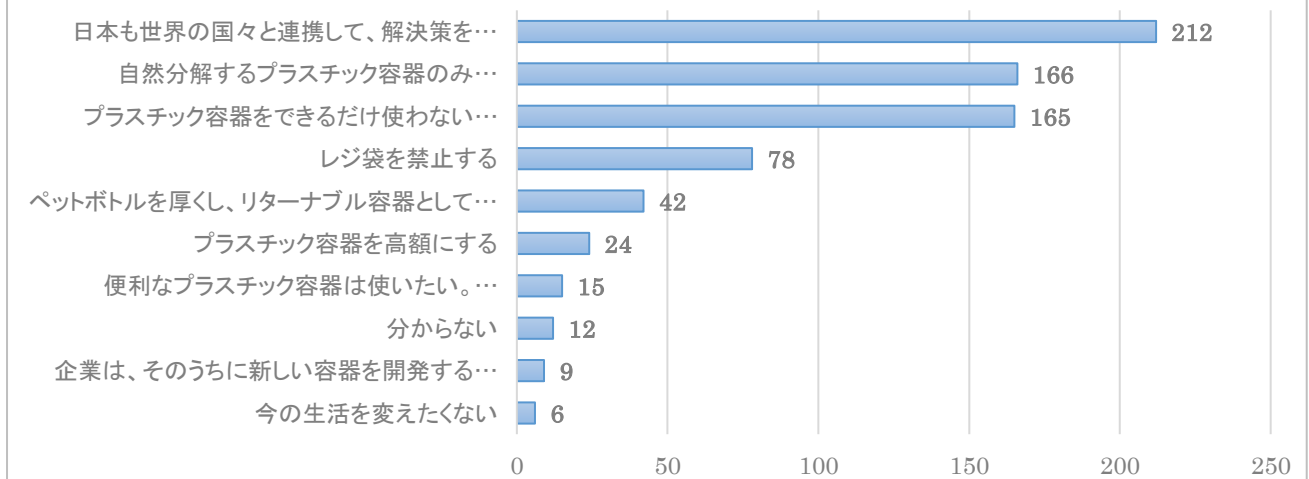
第1位は「資源が削減できるなら良い」(91人、34.5%)、第2位は「プラスチック容器の使用禁止」(61人、23.1%)となりました。

また、「わからない」と回答した人が41人(15.5%)もいました。

Q3-3 あなたはマイクロプラスチック問題をどう考えますか？(3つまで)

NO	項目	数	%	順位
1	プラスチック容器をできるだけ使わないようにする	165	62.5	3
2	プラスチック容器を高額にする	24	9.1	6
3	自然分解するプラスチック容器のみを使用する	166	62.9	2
4	レジ袋を禁止する	78	29.5	4
5	ペットボトルを厚くし、リターナブル容器としてのみ使用する	42	15.9	5
6	企業は、そのうちに新しい容器を開発するだろうから、それまで今まで通りでよい	9	3.4	9
7	便利なプラスチック容器は使いたい。その裏にデメリットがあるのは当然で仕方ない	15	5.7	7
8	今の生活を変えたくない	6	2.3	10
9	日本も世界の国々と連携して、解決策を考えるべき	212	80.3	1
10	わからない	12	4.5	8

Q3-3

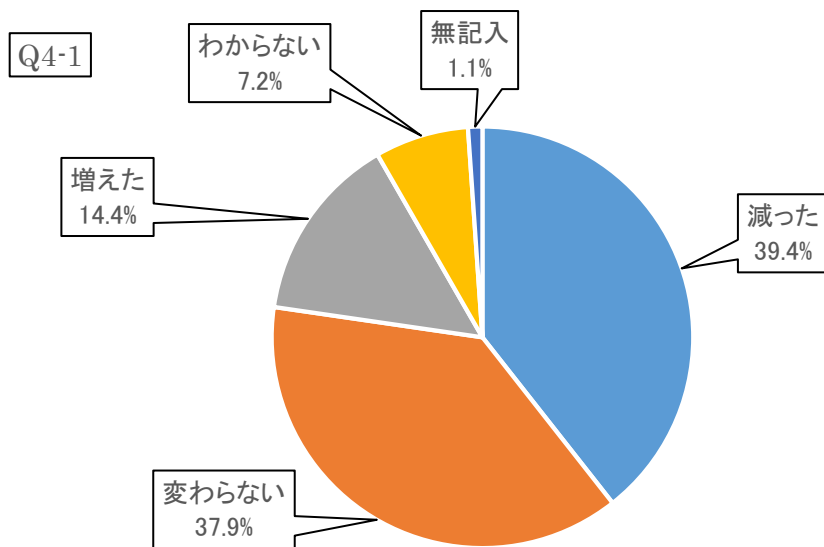


第1位から第3位までが圧倒的な支持がありました。第1位は「日本も世界の国々と連携して、解決策を考えるべき」で、約8割の人が回答しています。第2位「自然分解するプラスチック容器のみを使用」と第3位「プラスチック容器をできるだけ使わないようにする」は、それぞれ約6割の人が選択しています。

4. ごみについて

Q4-1 あなたが排出するごみの量は、5年前と比べてどのように変わりましたか？

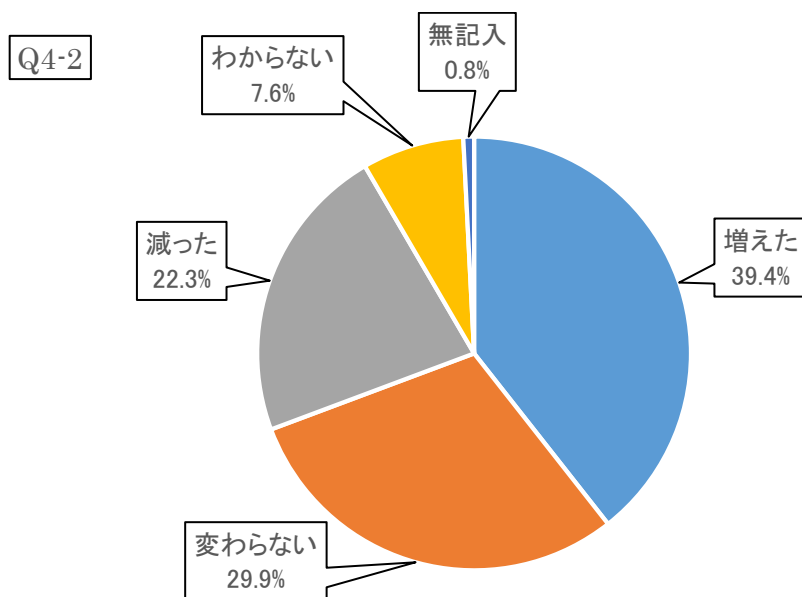
項目	数	%
増えた	38	14.4
変わらない	100	37.9
減った	104	39.4
わからない	19	7.2
無記入	3	1.1
合計	264	100



排出するごみの量は、5年前と比べて「減った」「変わらない」がそれぞれ4割弱の人が回答しています。

Q4-2 あなたが排出するプラスチックのごみの量は、5年前と比べてどのように変わりましたか？

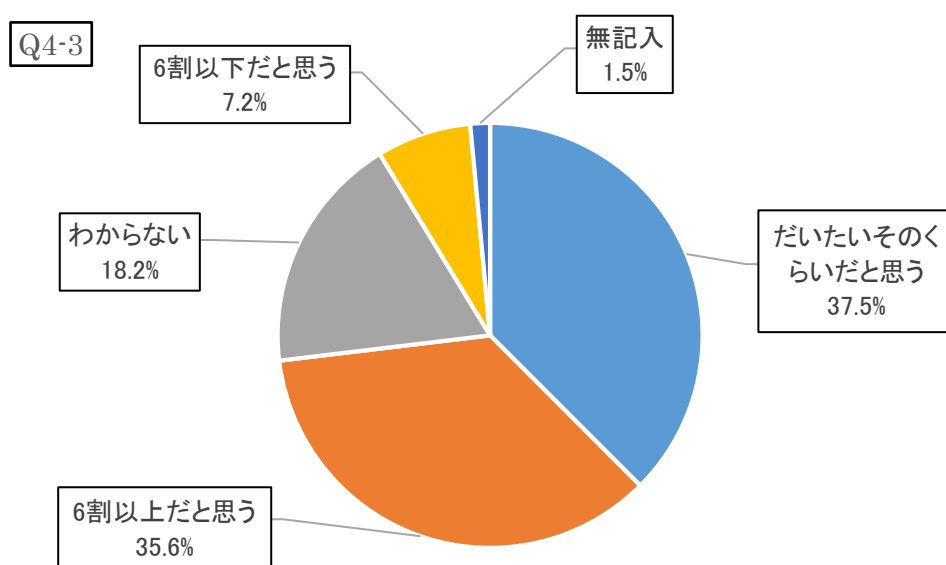
項目	数	%
増えた	104	39.4
変わらない	79	29.9
減った	59	22.3
わからない	20	7.6
無記入	2	0.8
合計	264	100



排出するプラスチックのごみの量は、5年前と比べて、約4割の人が「増えた」と答えています。続いて、「変わらない」が約3割、「減った」が約2割の人が回答しています。

Q4-3 環境省によると、平成 29 年度の家庭ごみに占める容器包装廃棄物は容積比で約 6 割(56.6%)でした。どのように思いますか？

項目	数	%
6 割以上だと思う	94	35.6
だいたいそのくらいだと思う	99	37.5
6 割以下だと思う	19	7.2
わからない	48	18.2
無記入	4	1.5
合計	264	100

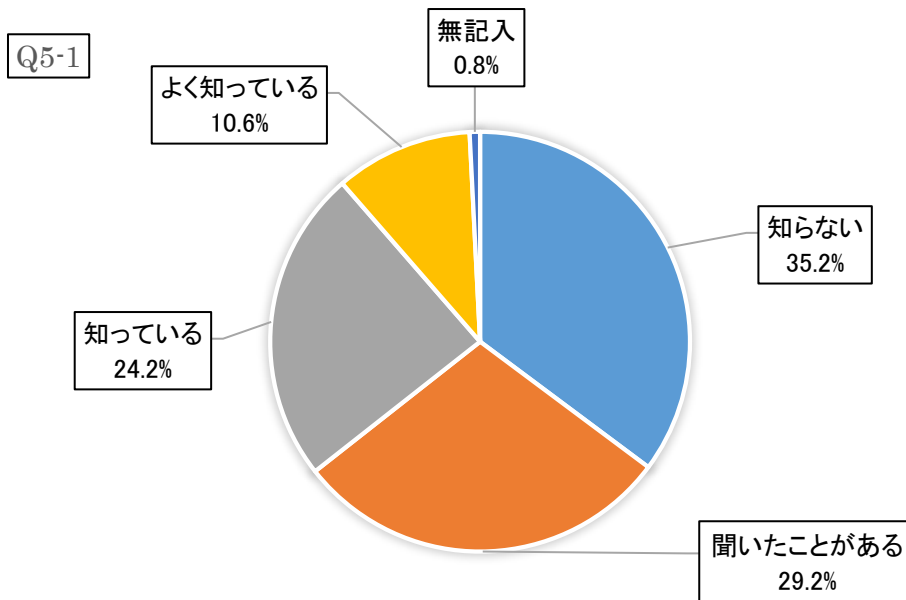


だいたい「6 割くらい」だと思う人が 37.5%(99 人)、「6 割以上」が 35.6%(94 人)で、ほぼ同数でした。一方、「わからない」と回答した人が 48 人(18.2%)もいました。

Q5 現在の容器包装リサイクル法では自治体が税金を使って分別収集をする役割を担っています。このため事業者には発生抑制や環境配慮設計に取り組む意欲を刺激することになりません。事業者には製品の生産使用段階だけでなく、廃棄リサイクル段階まで責任を持たせる拡大生産者責任という考え方があります。

Q5-1 この考え方をご存知ですか？

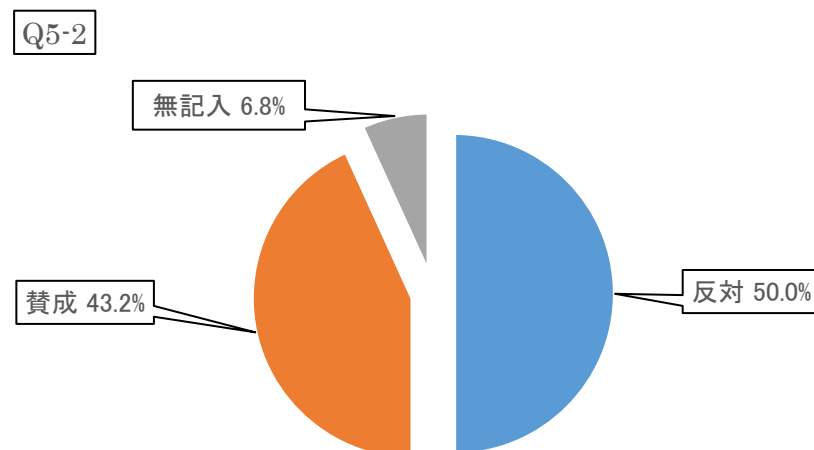
項目	数	%
よく知っている	28	10.6
知っている	64	24.2
聞いたことがある	77	29.2
知らない	93	35.2
無記入	2	0.8
合計	264	100



第 1 位が「知らない」93 人 (35.2%)、続いて第 2 位が「聞いたことがある」(77 人、29.2%)。「よく知っている」「知っている」を合わせても 3 割強ということがわかりました。

Q5-2 今のまま、税金でリサイクルを続けることに賛成ですか？

項目	数	%
賛成	114	43.2
反対	132	50
無記入	18	6.8
合計	264	100



「反対」する人が多いものの、「賛成」「反対」がほとんど同数で、意見は真っ二つに割れました。それぞれの理由については、[【資料 I】](#)をご覧ください。

Q6 容器包装についてご意見・ご要望等、ご自由にお書きください。

121 名の方から 199 件のご意見ご要望がありました。(【資料Ⅱ】参照)

まとめ

1. 飲料容器について

飲み物を買う時、「飲みかけでもフタができる」容器を求める消費者が圧倒的に多いことがわかりました。さらに消費者が求めているのは、環境に配慮し、かつ安全な素材を使用しており、軽い容器となっています。飲料容器でフタができるのは、ペットボトルと缶が代表だと考えます。環境に配慮した素材とは何かとの設問がないので、様々な素材をどう考えるかで変わってきますが、グリーンコンシューマー東京ネット(以下、略称のグリコン)では、ペットボトルを「環境に配慮した素材を使用している」と考えていません。したがって、消費者が求めている飲料容器に一番近いのはフタつきの缶飲料だと考えます。

また、その他の記述内容を見ると、リユース容器やリサイクルしやすい容器が挙げられています。

ペットボトルが薄くなってきたことについては、半数の人が「資源を使わないので良い」と回答しています。一方、薄くて潰れそうで飲みにくい、小さく破壊されやすく自然環境を汚染する速度が早くなっていると回答した人が、それぞれ 14% 台います。

また、「すぐ潰れてしまうので、再利用するのに不便」と回答した人が 8% でした。一度購入したものを何度も利用するという人が少なく、ペットボトルは使い捨て容器であることが改めて確認されました。

容器を缶からペットボトルに変更したメーカーが出てきたことについては、ふたを閉められるので便利になったと回答している人が約 3 割います。しかし、ペットボトル容器が環境に与える影響を考え、「ペットボトルを増やすのに反対」、「飲料メーカーの環境に対する対応が問題」など、約 4 割の人がペットボトル容器自体に疑問を感じています。

これらの回答を参考にとすると、消費者が求めている飲料容器は、フタができ、素材は安全で環境に配慮したもの、しかし、ペットボトルには賛成できない、そんな容器であることがわかりました。

グリコンとしては、消費者の要求に答えるには、さらに軽い水筒が必要だと考えます。

2. レジ袋について

レジ袋は、使い捨てのプラスチック容器として常にやり玉に挙がっていましたが、いまだコンビニエンスストアをはじめ約 1/4 の店舗が無料で提供していることがわかりました。有料またはポイントをつけるなど、マイバッグ持参を促している店舗は約 7 割です。海外では、既にレジ袋禁止となっている国もある中、日本の対応は非常に鈍いことが分かります。お客様サービスと謳い、無料で提供している店舗は、結局、地球環境を破壊し、決してお客様のためにならないことを改めて考え直すことを求めます。

約 3 割の消費者はレジ袋をもらわないと回答していますが、約 6 割の消費者はレジ袋を週に 1 枚～5 枚もらっています。有料の店舗へ行く時はマイバッグを持参するが、無料の店舗ではレジ袋をもらうという消費者の行動に終止符を打ちましょう。ただより高いものはありません。無料だからもらうレジ袋がいかにも環境を破壊しているか認識する必要があります。

レジ袋が薄くなったことについては、約半数の人が資源の使用量が減って良いと思うと回答しています。資源の使用量を考えるならレジ袋の使用枚数を減らすのが一番効果的です。薄くなることによって、すぐ破

れて再利用もできず、短時間で破壊されます。すぐ破れて再利用できないので困ると回答した人が 2 割います。約 6 割の人が週に 1 枚～5 枚レジ袋をもらっていますが、ほとんどの人が再利用していないことになります。レジ袋も最終的には適正に廃棄しなければなりません、一度手にしたレジ袋は何度も再利用することが重要です。資源の使用量が減ったということだけで良いと判断できない部分もあります。

目先のことだけでなく、どのような地球を未来に残すのか、考えましょう。日本もレジ袋は速やかに禁止すべきだと考えます。

3. マイクロプラスチックについて

最近、マイクロプラスチックについて報道される機会が多いので、9 割以上の人が聞いたことがあるようです。

さまざまなプラスチック容器が薄くなってきたことについて、資源が削減できるなら良いと回答した人が 91 人(34.5%)で 1 位でした。薄くなるとマイクロプラスチックになりやすく環境汚染が広がるなど、プラスチック容器継続に異議がない人を合わせると約 6 割になります。一方、プラスチック容器そのものの使用を禁止すべきと回答している人は、61 人(23.1%)です。プラスチック容器のメリットはたくさんありますが、グリコンではデメリットの方が多いと考えています。少し不便になっても、代替品を考えていくことが必要でないでしょうか。

マイクロプラスチック問題については、世界の国々と連携して解決策を考えるべきと回答した人が 8 割強で、圧倒的多数です。続いて、自然分解するプラスチック容器のみ使用、プラスチック容器をできるだけ使わないようにするが、それぞれ 6 割以上の人を選んでいきます。

世界中で使われているプラスチック容器をどうするか。世界は海でつながっています。一国で処理できないことは明白です。世界全体で一緒に考え、より良い解決策を模索することが重要です。私たち消費者も利便性だけを望むのではなく、視野を広げて考えましょう。

4. ごみについて

排出するごみの量は 5 年前と比べて、減ったまたは変わらないとそれぞれ約 4 割の人が回答しています。

排出するプラスチックのごみの量は 5 年前と比べて、増えたが約 4 割、変わらないが約 3 割の人が回答しています。ごみ全体の量は減っているが、プラスチックのごみの量は増えています。全体的に使い捨てのプラスチック容器が増加していることが分かります。

プラスチック容器を資源として回収している自治体もあります。しかし、回収と同時に、プラスチックを燃やすごみとして分類している自治体では、容器を洗って資源として回収ボックスに入れるより、燃やすごみとして出した方が楽という消費者も多くおり、燃やすごみが増加しているのが現状です。プラスチック容器をどうするか、安易に燃やしていいのか、国・自治体とも議論する必要があると考えます。

家庭ごみに占める容器包装廃棄物は容積比で約 6 割あることについて、だいたいそのくらいだと思うと回答した人が 99 人(37.5%)でしたが、一方、6 割以上だと思う人が 94 人(35.6%)いました。シンプルな包装が増えているとはいえ、まだまだ、過剰包装が多いことが分かります。中身を守り、運ぶためには容器や包装は必要ですが、環境問題を考慮し、できるだけ包装を減らすよう事業者に求めます。

事業者が生産から廃棄まで責任を持たせる拡大生産者責任について聞いたところ、知らないと回答した人が第 1 位で 93 人(35.2%)でした。容器包装リサイクル法の施行前は、新聞・TV などで盛んに報道され

ていましたが、現在はほとんど聞くことができません。その結果が顕著に現れたと考えます。海外では当たり前でも、まだまだ日本では受け入れられていません。2015年に国連で採択された「持続可能な開発目標=SDGs(エスディーゼズ)」の12番目に「つくる責任、つかう責任」が挙げられています。拡大生産者責任は、つくる責任に当たります。日本も政府をはじめ各省庁でSDGsを推進していくと表明しています。拡大生産者責任を導入すべきなのは明白です。

最後に、税金で資源回収し、リサイクルをすることについて聞きました。「反対」が5割、「賛成」が4割強でした。ほとんど同数で、真っ二つに意見が割れました。

反対の主な理由は、事業者が責任を持つべき、税金で処理していたのではごみは減らない、使った人が費用を負担すべき、商品にリサイクル料を上乗せする、など受益者負担の意見もありました。賛成の主な理由は、税金以外では賄えない、事業者によるリサイクルは期待できない、最終的には自治体が責任を負うほかない、対策がない以上税金を使う、などです。それぞれの理由については[【資料Ⅰ】](#)をご覧ください。

税金によって際限なくリサイクルを続けることは、「つかう責任」を持たないことになります。グリコンでは、人口減少社会を迎える日本は「使い捨てのごみに税金を投入している余裕などない」と考えています。

自由意見

容器包装についてご意見・ご要望等、自由に書いていただいたところ、121名の方から199件の記述がありました。下記の通り、大括りのテーマでまとめてみました。詳細は、[【資料Ⅱ】](#)をご覧ください。

- 容器包装 44件
- 国民・消費者の意識 32件
- 規制、制度 18件
- レジ袋 16件
- 事業者 12件
- リサイクル 12件
- マイクロプラスチック 8件
- 素材 4件
- その他 53件